

学校通信



喜多見



No.9 令和6年1月31日

喜多見の学び舎

世田谷区立喜多見中学校

校長 紺谷 祥一

〒157-0067 東京都世田谷区喜多見4丁目20番1号 TEL 03-3417-4971(代)

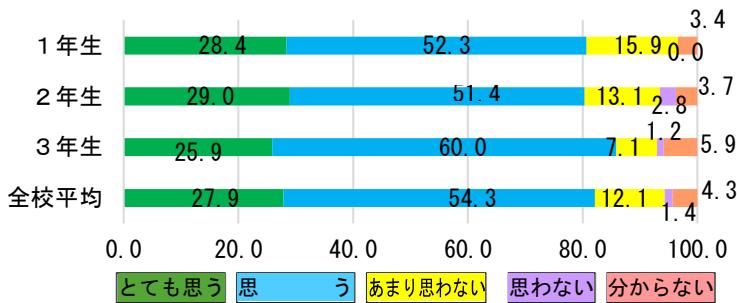
E-mail : dai131@setagaya.ed.jp

<http://school.setagaya.ed.jp/tkitami/>

学校関係者評価アンケートから（1）

校長 紺谷 祥一

【自分で決めることが大切にしている。】



昨年末にご協力をいただきました「学校関係者評価アンケート」について、結果がまとまりました。全質問項目における結果および分析、ならびに成果と課題等については、今後実施予定の「学校関係者評価委員会（委員長：香取 葉子 様）」の承認を得次第、本校ホームページに掲載します。今号では、一部の質問項目について、取り急ぎ話題とさせていただきます。ご協力、ありがとうございました。（中面に、記述回答についても掲載しています。）

上のグラフは、今年度重点目標のキーワード「自己決定」について、生徒たちにそれを大切にしているかをダイレクトに尋ねた結果です。生徒の主体性の伸長を図ることを主眼に、「自己決定を促す自由な学びの場面」を通じて子どもたちの心を揺さぶってきました。今年度はじめて採り入れた質問項目なので、昨年度との比較はできません。しかし、結果としてどの学年の生徒もその大切さについて認識していること、そして、学年が上がるに連れて肯定率が高くなることが読み取れます。

この一方で、自己決定には、「外発的動機付け」と「内発的動機付け」（動機付け：モチベーションのこと）に心理学上では大別できるそうです。そして、それらは対立する考え方ではなく、自己決定の強さによって外発的動機づけから内発的動機づけへと変化するとされます。下に具体的な「調整（≒行動）」の例をあげてみます。

1 「外的調整」：人から言われたから行動するもの

- ・他人から言われたから行動するもの。「～したら△△を買ってね」とか、「～しなかったら罰で△△ね」などの条件を伴うから、行動に移すレベル。条件等によって行動の質も変わる。

2 「取り入れ的調整」：恥ずかしい気持ちや行動しないと罪悪感を覚えるから行動するもの

- ・宿題を忘れるなど皆の前で格好悪いので、仕方なく行動するレベル。義務感によって行動するもの。

3 「同一化的調整」：その対象に価値があると感じているから行動するもの

- ・楽しいわけではないが、そこに一定の価値を見出しているから行動するレベル。自分自身がその目標達成等を必要だと感じているために行動するもの。試験合格のための勉強など。

4 「統合的調整」：自分らしさ、楽しさのために行動するもの

- ・やりがいを感じて行動するレベル。周囲からの期待や要求も理解しながら、同時に自分自身の価値観と行動の価値が一致しており、納得して行動するもの。将来の夢を叶えるための努力など。

いかがでしょうか。「自己決定」と一口で言っても、その行動に移す際のモチベーションには「質」の違いがあることがあります。そして、その行動に伴う結果の質も大きく変わってくることは、誰もが経験済みでよく分かっているはず。たとえ自己決定のきっかけが「人から言われたから」であったとしても、行動に移していく内にその対象の中に「やりがい」や「楽しさ」、「好奇心」を段々と見出すことも少なくありません。さらに、ひとたび内発的動機づけがなされると、高い成果が得られるのでその行動が継続され易くなるなど、好循環が生まれます。「どうせやるなら、前向きに楽しくやる」という姿勢は、理にかなっています。

繰り返しになりますが、1年生の80.7%、2年生の80.4%、3年生では85.9%の生徒が「自己決定を大切にしている」と肯定的に答えました。「あまり思わない」「思わない」「わからない」と回答した生徒の皆さんも含めて、何か自分が行動をしているときに、ふと立ち止まって次の質問を呪文のように自分に問い合わせてください。『この行動は自己決定に基づくもの。さて、ではどのレベルの調整か？ 1か？ 2か？ 3か？ 4か？』 1が2に、2が3に、3が4に転じればしめたもの。ぜひ、試してみてください！

1年生の様子から（廣瀬光恵）

3学期を迎えた1年生は、冬休み明け直後から係や当番の活動にスムーズに取り組めています。状況を見て行動できることが増えたため、教室の移動、集会での整列や、授業の開始前の着席が早くなりました。先日行われた百人一首大会では、畠係の男子、札と表示係の国語係等が役割をしっかりと果たしたこと、タイムテーブル通りに進行させることができました。1,2学期に学級委員を中心として集団行動を身に着けてきた成果を感じます。まだ課題と感じる点もありますが、様々な場面で自分から声を掛ける人が増えてきており、これから成長が楽しみになります。また1月は集団だけでなく、個人としての成長を感じる機会もたくさんあります。12分間で走った距離を記録する「クーパー走」では、毎回自分の記録更新に挑戦する様子が見られました。全部で5回の機会がありましたが、伸びた記録を笑顔で報告してくれる生徒が何人もいました。3学期は1,2学期のホップ・ステップに続くジャンプの「総仕上げ」の時期です。落ち着いた雰囲気を皆で作り、今やるべきことに真摯に取り組みながら、2年生への飛躍となる3学期にしていきましょう。



2年生の様子から（小池紗貴）

1月26日、2年生は「目指せ！Tokyo Master」のスローガンを掲げ、校外学習(都内巡り)に出かけました。晴天に恵まれ、朝からわくわくした表情で出かけていきました。途中のチェックポイントや見学施設でいくつかの班と会えましたが、本当にみんな楽しそうな様子でした。最後の喜多見駅のチェックポイントでは、「楽しかったです！」と笑顔で報告をする人、おみやげや写真を嬉しそうに見せてくれる人、疲れはあるものの達成感でいっぱいの表情の人で溢れていて、充実した1日を過ごしたことが伝わってくる素敵な空間となっていました。きっと忘れられない思い出ができましたね。でも、それ以上に忘れてほしくないのは、当日までにたくさんの準備を重ねてきたこと。1人1人が班での自分の役割を自覚し、班員同士で助け合いながら、これまでに経験したことのないことを一緒に乗り越えてきました。仲間と共に、時には苦労もしながら作り上げてきたからこそ味わえた充実感や喜びを忘れないでいてほしいです。私たち教員は、みなさんが一生懸命に頑張る姿、協力して何かをやり遂げる姿を応援するのが大好きです。だから、今回の校外学習では、私たちもとても幸せな気持ちになれました。次は事後学習、そして修学旅行につなげていきます。みなさんなら、さらに上を目指していくと信じています！

3年生の様子から（高須宏明）

1・2年生が百人一首大会で、さらに2年生は校外学習の取り組みでと、行事で盛り上がっていたのを横目に3年生は、素々とひたすら自分たちの進路決定にむけて動いていたという印象の1月でした。

休み時間でも問題集に取り組んでいる生徒、2学期にやっていただいた面接練習を校長先生にもう一度お願いした生徒、生徒同士で面接の受け答えの練習をしていた生徒、自己PRの書類を清書の前に何回か先生に見てもらったり直していた生徒、受験する学校で過去に出された課題作文にチャレンジした原稿を国語科の私に「添削してください」と申し出てきた生徒……もちろん、そのほかの手続き上必要なことも準備しました。手続きなどで煩雑さもあったかとは思われますが、必要に応じ学年教員と確認を重ねて抜かりのないように進めてきました。

受験は団体戦

そんな中、受験日を迎えて精神的に緊張感やプレッシャーが高まるのも無理ないところです。しかし、そんな時こそ学年集会で岡部先生が話された「受験は団体戦」との言葉を噛みしめる時かもしれません。「自分たち」の進路決定は、みんなでバックアップし合い励まし合いながら乗り越えていきましょう。

わたしの
授業

新年号は講師の中村 功先生（社会科、E組と2年生担当）の授業紹介からです。幅広く、そして深い知識が駆使されて展開する中村先生の授業。そのワールドに引き込まれ、50分をあつという間に感じる生徒は少なくない様子です。集中しないと分からないジョークも飛び出します！

人がものごとに興味を持つのは「へー、なんだ！」と新しいことに気づいた時だと思います。そのため、私は生徒に興味を持たせ、もっと知りたいと思わせる授業をおこなうように、こころがけています。ただ、何年か教員の仕事を続ける中で、授業をおこなう際に言葉や文字の説明だけでは、生徒の興味を引くことが難しいと感じることが何度もありました。そこで、写真などの画像を用意して授業を行ってきましたが、現在の中学生は、SNSなどで動画を見る機会の多いので、静止画では不十分なようです。

また、授業は「なまもの」であると考えます。私が示した教材に対して、生徒がそのとき見せる反応をとらえて、臨機応変に対応できるようにこころがけています。教材が生徒の興味の核心に触れた場合は、生徒の盛り上がりに合わせて多少の時間が伸びてしまうことにも目をつぶるようにしています。ただ、病気のために2年ほど現場を離れてしまったので、感覚が鈍くなり、教材が生徒の興味に合わなかった時のマイナスな反応に対する感受性が鈍ってしまい、切り上げるタイミングが遅くて、内容とは関係のない雑談が始まって、教室がざわざわしてしまうことがあります。これから私の改善点だと考えています。





今号の「わたしのきたみち」は、井川さん（R.4 卒）。井川先輩は早い段階から鉄道員という明確な目標をもって高校選びをし、合格を果たしました。先日、近況を報告しに校長室に寄ってくれ、皆さんにも熱いメッセージを伝えてくれることになりました。

皆さんこんにちは！昭和鉄道高校に通っています、井川です。中学校時代は放送委員長として活動していましたので、その印象が強い人もいると思います。現在は1-A の学級委員長としてみんなをまとめたり、音楽部の副部長として日々技術を磨いたりしています。さて皆さん、今、夢はありますか？「パーティシエになりたい！」とか「電車の運転士になりたい！」など、明確な目標を持った人や「まだ進学なんて先」「就職なんて大学に行けば勝手にできる」と思っている人もいると思います。私の通っている昭和鉄道高校は、将来鉄道員になりたいと思っている人はもちろん、将来安定した職に就きたい、安定した収入を得たい人などもウェルカムな学校となっています。鉄道の乗務員（車掌、運転士）は社会のなかでも安定した職とされています。しかし、多くの人の交通の足として生活を支えることから、その責任は大きく、業務は楽ではありません。学校では鉄道専門科目の旅客営業や工業技術基礎、もちろん高校で習うべき科目を受けることができます。旅客営業は運賃を計算したりする授業で、工業技術基礎は学校にある実際に丸ノ内線で使われていた実車を使って授業をしています。ほかにも、企業の研究や就職対策なども行われておりほんとに高校卒業後に就職することができる学校です。進む課によっては、大学へ進学することができるので高校在学中に進学したくなつても進路を変えることもできます。また、高校入学後に中学校の内容を丁寧に復習するので、成績に自信がなくても大丈夫です。君も一緒に日本の未来を担う鉄道業界を動かしたくないかい？ 昭和鉄道高校でお待ちしています！



「保護者による自由意見」（抜粋）とその回答 学校関係者評価から（2）

ご協力いただきました学校関係者評価アンケート（自由記述欄）には、教職員に対するたくさんの感謝の言葉や慰労等のほか、ご指摘や貴重なご意見等をお寄せいただき感謝申し上げます。本コーナーでは、すぐにご回答できる事柄を抜粋し、現在の学校の検討状況や次年度以降の予定や計画等についてお伝えいたします。

1. 人権教育は、差別、偏見、いじめについて考える機会や多様性が求められる中でさらに必要だと思う。
→ 特に1年生の保護者の方からは「いじめ」を心配する声も2件寄せられました。また、その内の1件は積極的な情報の公開を求めるものでした。ご心配をお掛けしたことをお詫びします。仲の良さは一小一中の本校の最大のメリットである一方で、ひとたび関係がこじれると深刻化するケースがあるのは大きな課題と捉えています。E組の開室により、「共同学習」が円滑にスタートできた手応えがあっただけに、平素の学級生活で時に他者を大切にする言動が取れない場面があるのはとても残念です。すでに各学年とも、「いじめ」を絶対に許すことのない姿勢の強化を図るとともに、次年度の重点目標には人権教育の一層の推進を掲げます。特に生活指導においては、「いじめ」の根絶をはじめ、生徒間トラブルの少ない学校生活に向けて取組みます。保護者の皆様のご理解とご協力について、改めてお願ひするところです。
2. 最近は学校外での活動の場が増えているなかで、月一回土曜日授業の在り方について、他のやり方での授業数の確保は出来ないのか、考慮をして頂きたい。試合や模試など平日には難しい事を土日に行う事も多くなっている為、近隣校や小学校との授業日の違いなどは保護者の負担も多いです。土曜日授業の実施を再考頂ければ幸いです。
→ 現行の第2土曜日に実施している「土曜授業」は、区内29校の公立中学校の一斉の取組みです。お寄せ頂いた声と同様の意見は区にも届いており、次年度以降に漸次変更が進められる予定です。次年度については、運動会や合唱コンクールを土曜日に実施して翌月曜日に振替休業日を設定した場合は、月一回の土曜日授業として扱い、同じ月に他に「土曜授業」は実施しません。また、令和7年度からは、振替休業日を設定しない土曜日授業については、区内全校で実施しない方向で検討がされます。
3. 子どもたちの教育でご多忙にもかかわらず、親に対しても親身になって相談に乗ってくださったり、的確なアドバイスをくださり、本当に感謝しております。
→ 本校の教育相談体制について、自身の着任以来一貫してその向上を課題にして取組んでいます。今年度も、「先生たちは、生徒が相談しやすい」（生徒全体：肯定率58.9%）、「本校は、子どもや保護者が相談しやすい」（保護者全体：肯定率62.5%）など、数字では大きな改善は得られませんでした。教職員と生徒、あるいは、教職員と保護者が何でも気軽に相談できない印象は課題です。しかし、それ以前に「相談ごと」が、相談されないまま放置されることはあると問題だと思っています。寄せられた声のように、『相談してよかった』という経験を多くの生徒や保護者の皆様に届けたいと思っています。信頼や関係の一層の構築に努めます。



2年生 校外学習に行ってきました！～目指せ！TOKYO MASTER！～



今回の2学年の校外学習は、大きな挑戦でした。来年度の修学旅行が1学期に行われることもあり、早くから「校外学習の経験を修学旅行につなげる」ことを目指して取り組みを始めました。班行動に明確な目的意識をもって臨んでほしい、京都・奈良のその前に、自分たちの住むこの東京についてもっと知ってほしいという願いがありました。その結果が、「各クラスコース別に班行動を行う。範囲は23区全域」という内容になったのです。国会議事堂、警視庁、ガスの科学館、深川江戸資料館、本所防災館など非常にバラエティーに富んだ40ヶ所あまりの見学場所。どういう順で回るのか、そのルートは、昼食をどうするか等、どの班も「自分たちの校外学習を作る」作業に追われた2ヶ月間でした。

正直に言って、本当に大変だったと思います。しかし、その大変さの中にも、やりがいのある充実感や一つ一つこなしていく達成感、仲間と力を合わせる喜び、発見の楽しさ、信頼できる仲間がいることの安心感など多くのことを実感することができました。職場体験でお世話になった農大の橋先生が以前に「楽しむことは乐じゃない」とおっしゃいました。今回の2年生は、「**楽じゃなかつたからこそ楽しかった**」と言える校外学習にることができたのではないかと思います。「挑戦と創造」、今年の2学年の学年目標に沿った校外学習でした。保護者の皆様にも様々なご心配をおかけしました。ご理解ご協力をいただき、本当にありがとうございました。

(写真左から：ガスの科学館、豊洲市場、上野公園)



おめでとう、若原 啓正さん 第14回 世田谷ガリレオコンテスト アイディア賞 受賞！！



第14回「世田谷ガリレオコンテスト」研究発表会が20日（土）区教育総合センターにて開催されました。区内各中学校の1,2年生より計2553点の出品があり、一次審査通過は9作品のみ。本校からは、1年C組の若原 啓正さんが選ばれました。“植物の蒸散量と気温の関係”と題した発表は、ヒートアイランド現象を抑制するのに有効な街路樹として適切な植物の研究。植物の蒸散が気温低下をもたらす働きがあるなかで、特にサクラの蒸散量が多いことを突きとめ、街路樹として見直すべきとの結論を導き出しました。ユニークな発想と確かな研究から、見事「**アイディア賞**」に輝きました。代表9名への本校生徒のノミネートは、一昨年の和田さん、昨年の稻葉さんに続いて3年連続の快挙。『教えられたり、質問されたり、答えたり、沢山の人と関わることが一番嬉しかった。この経験をたくさん活かしたい！』とは、若原さんの素敵なお言葉。おめでとうございます！

(右：渡部教育長からの質問にも堂々と答える若原さん)



2月の予定から

- 2月 2日（金）都立高校推薦入試合格発表
10日（土）**学校保健委員会**
第2回新入生保護者説明会
(11時00分から11時50分 於：体育館)
14日（水）学び舎の日（小学校の先生方が来校されます！）
21日（水）都立分割前期・一次入試（～22日、発表3/1）
27日（火）学年末考査（～29日 この間給食なし）



2月の相談室の開室日

日	月	火	水	木	金	土
28	29	30	31	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	1	2

【担当SC】□：都築 ○：高瀬

【場所】相談室は中央校舎1階 保健室の隣です

入学予定の児童保護者の方の相談もお待ちしています！

相談室直通ダイヤル
03-3417-5372

学校保健委員会
日 時：令和6年 2月10日（土）
午前8時50分 から 9時40分
(懇談会 9時50分から10時20分)
会 場：本校体育館 **お説きあわせの上、ご参加ください！**
内 容：**「そうだ、さかなを食べよう！！」**
講 師：中島食品(株) (学校給食納品業者) 中島 雅也 様



日本の豊かな魚食文化を確認し、偏りのない健康的な食事について子どもたちと一緒に勉強をします。ぜひ、ご来校ください！